

6. まとめと今後の課題

我々は日々の訓練に携わりながら、教材を準備する事にどの程度の時間がさけるのであろうか。教材の理想的な形を考えてみれば、その作成に当たっては、手間と時間のかかる、油絵で絵の具を塗り重ね、削り、そしてまた塗り重ねていくような、積み重ねの作業を必要とする。なぜならば、訓練の対象者のレベルや目的は、一定でなく、ましてそれを使って教える側の使い方によっても、その内容は検討され、変更されていく必要が出てくるからだ。また、特定の訓練を目的とした教材というものは、参考書のように解説を読むことによって読む者が理解していくのではなく、解説そのものに受講生に理解をさせる要素というか、訓練を進める中で、自然と相手が理解を深めていくような、そんなノウハウを詰め込んでいくことによって、完成度を高めていくことが出来るのではないであろうか。用語一つであっても、その選択の作業は非常に地道なものであると思われる。いや、理想という物を考えれば、決して完成を見ることは無いといってもいいのではないだろうか。

我々としても、理想の教材を開発すべく実際の訓練で受講者の反応を探りながら、日々積み重ねていくことも必要であろう。ただ、全国に同じ様な内容の訓練を担当しておられる、色々な経験や知識を持つ指導員がたくさんいるのであるから、個々のノウハウを持ち寄り、時には訓練を担当していない方からも補ってもらいながら、教材を開発していくことさえできれば、より完成度の高い教材が、それほど時間を必要とせず、開発することは不可能ではないのではなかろうか。また、理想に近い教材というものは、決して絶対的なものではない。訓練を担当する指導員や、その施設に設備された機器等によっても変化して当然である。その変化に対応する事を考えたとき、教材が印刷物としてのみ存在しているのではなく、データベースとして、使う物が必要に応じて引き出し、組み合わせる事が出来る物であればさらに便利であろうし、その変化は留まることを知らず、どんどんと理想に近い形に、また時代に適合する形に進んで行くであろう。多くのソフトウェアが、バージョンアップしてきたように。

当委員会では、これらの教材の開発をUITnetのフォーラム上でコンピュータのデータによる複数の担当者間でのやりとりによって試行してみた。結果は、手応えが十分感じられたといえるものであった。最近の通信に関する急激な前進によって、職業能力開発施設間においてもネットワーク網は整備されていくと思われるが、我々が試行した時の環境より、かなり高いレベルでの通信環境が確保されるようになれば、より理想に近い形で教材の開発に取り組むことも可能になってくるであろう。そして、開発された教材は、データベースとして我々の財産になりうるであろう。

技術革新、産業構造転換等が急速に進展している現在、企業等においてはこれらの状況に対応できる人材の育成が急務になっている。そこで、公共職業能力開発施設では、これらの企業等のニーズにマッチした訓練を行うために、迅速な能力開発セミナーの開発が必要に迫られている。

今回まで検討してきた『職業訓練用教材開発支援システム』は、これまで個人に頼ってきたセミナー開発（教材開発等）を、組織化し多種多様なニーズへの対応を可能にするシステ

ムとして大きな可能性を持っている。

つまり、近年の情報機器の進歩により、教材についてもマルチメディアを利用したものや、テレビ会議システム等使用した、遠隔地間のディスカッション方式による能力開発など、様々な形態が考えられるようになってきており、将来的には、このような新しい能力開発形態にも対応した教材の開発にも使用可能で、さらに、職業能力開発全体を網羅する『能力開発ネットワークシステム』を目指すべきである。

参考文献

- ・ 職業訓練用教材開発支援システム構想について（職業訓練研修研究センター）
- ・ 職業訓練用教材開発支援システムの開発 ～システム検討委員会報告～（研修研究センター）
- ・ パソコン通信（UITnet）による教材開発の試み ～グループウェアによる職業訓練用教材開発をめざして（研修研究センター）